

県外派遣報告書

審判員名	箱石 拓也	所属	埼玉県	
大会名	令和5年度 関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 関東高等学校男子バスケットボール選手権大会			
期間	令和5年 6月2(金)～6月4(日)			
会場	アダストリアみとアリーナ			
スケジュール				
期 日	内 容	場 所		
6月1日(木)	審判会議・レクチャー	自宅		
6月2日(金)	事前準備	アダストリアみとアリーナ		
6月3日(土)	1回戦・2回戦	アダストリアみとアリーナ		
6月4日(日)	準決勝・決勝	アダストリアみとアリーナ		
会議 講義 内容				
<p>レフェリーをする上で大切にしていることをレクチャーいただきました。以下にまとめました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Out putの重要性・・・情報を得ることは比較的容易なご時世、いかに自分が持っている知識・情報をon the courtで表現できるか。→「知っている」を「判定できる」まで持っていく。単純に「知識」はテーブル上で会話のトピックを増やすためだけでなく、見たことない出会ったことのないケースに対してon the courtで「決断する」為の材料にしたい。 ・Out putの阻害要因・・・外的要因として、準備段階での不安(このレベルのゲームは初めて。あの先輩審判と吹くのはちょっと。)過去の経験からくる不安(苦手な選手やコーチのいるチームの試合。過去の失敗の記憶。)、不確定な未来への不安(失敗したらどうしよう。周りからどう思われるだろうか。)、自分自身の内的要因として、小さいことを気にしすぎる、強すぎるこだわり、情報過多(知識が消化不良)、過緊張(体が硬直) ・Out putを促進させるもの・・・自信と余裕、勇気「断固たる決意」、思い切り(≒開き直り)、目の前のことに集中しているメンタル <p>引き出しからスムーズに知識を取り出すための「ひらめき」「アイディア」「機転」、自分にとって適切な知識量、適度な緊張感と適度なリラックス</p> <p>メンタル的な部分の重要性が改めて学ぶことができた。コートに入る前の準備としてできることを徹底していきたい。また、審判は人間がやることなのでミスはつきものであるが、ミスや突発的に起きた現象に対して、いかにゲームへの影響を最小限にして食い止めるかも大切なことだと感じた。自分自身のメンタルコントロールをベースにして、ゲームへの準備等を実践していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの変化・・・「映像」ではできないこと <p>現場での雰囲気(選手、コーチ、観客、緊張感など)を大切にしていきたい。映像で振り返った際に必ず思うことは、映像で見ると正しい答えは確かにこっちなんだけど、、、現場ではこう判断しました。→ゲームアジャスト感、フィット感、ゲームコントロールなど</p> <p>全てにおいて映像が正しいとは限らない。現場で判断したことに対してもリスプレクトを忘れずにしてほしい。</p>				
実技				
担当試合	期 日	令和5年 6月3日(土)	(男子) 女子	2回戦
	対戦カード	本庄東(埼玉) VS 國學院久我山(東京)		CC (U1) U2
	相手審判	CC 秋葉(茨城) U1 箱石 U2 田中(茨城)		
ミーティング内容		主任 古畑香子(茨城)		
<p>PGCについて</p> <p>メカニクスの確認と対戦カードについてミーティングした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクス ①リード・・・ローテーションのタイミング、プライマリー意識 ②センター・・・ストロングセンター ③トレイル・・・ロートレイル、ポジションアジャスト <ul style="list-style-type: none"> ・対戦カードについて <p>本庄東・・・トランジションの中で得点の機会を増やしてくるチーム</p> <p>久我山・・・基本的には1対1で勝負してくるチーム</p> <p>ゲーム終了後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗が変わるような大きな問題はなかった。 ・ゲームにアジャストできておらず、自分自身の判定と選手たちのリアクションとはズレがあった。また、1Qからクルーとも判定のズレがかなりあったことに戸惑いを感じながらゲームを進めてしまった。またLの際の立ち方や振る舞いについても改善すべきことがたくさんあったので、しっかり修正していきたい。 ・メンタル的な要素として <p>自分の判定に自信がもてていなかったために、躊躇したり、迷ったり、不安になったりしてしまった。メンタルの揺れがかなり大きかったので、プレーに対して自分の考え表現することを閉ざしてしまった感があった。勿体無い試合だった。またチームには全く関係ないことなので、自分自身の100%の力を常に発揮できるようにしていく。</p>				

実技			
担当試合	期 日	令和5年 6月4日(日)	(男子) 女子
	対戦カード	湘南工科大(神奈川) VS 國學院久我山(東京)	Bブロック準決勝
	相手審判	CC 梶(本部) U1 箱石(埼玉) U2 土田(茨城)	CC (U1) U2
ミーティング内容		主任 平出 剛	
PGCについて			
PGCについて			
メカニクスの確認と対戦カードについてミーティングした。			
・メカニクス			
①リード・・・ローテーションのタイミング、プライマリー意識			
②センター・・・ストロングセンター			
③トレイル・・・ロートレイル、ポジションアジャスト			
・対戦カードについて			
湘南工科大・・・トランジションの中で得点の機会を増やしてくるチーム			
久我山・・・基本的には1対1で勝負してくるチーム簡単にメカニクスの確認と判定についてレクチャー			
ゲーム終了後			
・全体的には良かった。(それぞれのプライマリーでキチンと判定されていた。)その中で、気になったことをいくつか指摘いただいた。			
①プライマリーとアングルで自身の判定する場所を決めるのではなく、自身のエリアとして捉えていれば、判定する場所を迷わないで済む。また、そのエリアでのプレーに対して自然に判定の責任が出てくる。ポジションアジャストをしにくいなどのチャレンジも生まれやすくなる。			
②飛び込んで笛を入れてしまったケースが本当に必要な笛だったかどうか??慌てて吹いていることをなくしましょう。			
③プレゼンの意識をもっと高く。→試合中、笛を加えたままプレゼンしていた。声を出す。笛を外して、緊張を解いてから、次のプレーへの準備をやってみる。			
④メカニクスについて・・・4QのEOQの場面で、サイドスローインの際にボールを上ポジションから渡すのか?下のポジションから渡すのかの判断を間違えないように。ペイント内でのブロックorチャージ&ビックインパクトのケースについてはLとCでダブルコールだったが、どちらがプライマリーでもっていくのかをPGCで確認して自分たちの次のゲームでしっかりできるようにしておいてほしい。			
全体の感想			
<p>まずはじめに、茨城県バスケットボール協会及び茨城県高体連バスケットボール専門部の皆様には細部にわたるまで御配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会へ派遣して下さいました埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。</p> <p>担当した2試合で感じたことは、それぞれのプライマリーを尊重すること、共通のクルーワーク、メカニクスの重要性、コミュニケーションの大切さを肌で感じる事ができた。また、大きな舞台だとしても臆することなく、判定をし、決断をする精神的な強さを学ぶ事ができた。メカニクス、判定、プレゼンといった課題は多く、反省は尽きることはない。しかし、この経験をいかして各所で行われる大会のクルーチーフやファイナルへの割り当てを勝ち取りたいと強く感じた。特に判定については、慌てて笛を鳴らしてしまうこととプライマリーではないエリアを飛び込んでしまう癖があることが課題である。さらに、たとえプライマリーを越えられたからといって慌てることなく自身の判定を貫く強さも必要であることとゲームフローを意識した判定をすることもチャレンジしていきたい。</p> <p>いつ?どこで?何を?誰に?判定して笛を入れて、どのように?試合を進めていくのかをこだわっていききたい。</p> <p>A級審判員として初めての男子関東であったが、1試合目は自分を出せずに引いてしまった。しかし、準決勝では、しっかりと自信をもって判定ができたと思う。派遣されるたびに感じることは、一人ひとりの審判員には必ず価値感や考え方があり、それを一つでも吸収できたことは非常に大きな収穫だった。今回の経験を必ず埼玉に還元し、切磋琢磨し、レベルアップに繋げたい。</p>			